

2025 年度第 2 回学校関係者評価委員会議事録

日時：2025 年 10 月 25 日（土）10:00～12:00

場所：本校 7 階研修室

議長：石川委員長

出席者：

- 委員：赤塚敦子（看護関連業界関係者）、石川幹夫（卒業生）、金子千尋（保護者）、倉本昌幸（医療事務関連業界関係者）、齊藤つばさ（くすり関連業界関係者）、藤井寿和（福祉関連業界関係者）、森川雅彦（高等学校関係者）（計 7 名）
- 本校：川口拓也（校長）、前田律子（副校長）、榊原幸之（事務局長）、石澤雅子（医療秘書科学科長）、渋谷大樹（くすり・調剤事務科学科長代理／教務委員長）、松田朗（介護福祉科学科長／学生委員長）、伊東由美（看護科学科長）、渡邊明子（看護科副学科長）、松本晋圭（広報室長）、杉本拓朗（キャリアサポートセンター長）、土屋瑠美子（学務課長・委員会事務局）、土方雄太（委員会事務局）（計 12 名）
- 委員会事務局：土屋瑠美子、土方雄太

欠席者：結城久美子（くすり・調剤事務科学科長）、川畑亮子（医療事務 IT 科学科長・診療情報管理科学科長）

議題等

1. 校長挨拶

来年度の「学校教育法」改正に伴う「単位制」への完全移行について詳細な説明があった。

- 2 年間 1700 時間という「時間制」から、大学と同様の「単位制（2 年課程 62 単位以上）」へ変更。
- 大学編入の接続を強化し、専修学校の立ち位置をより高度化させる狙いがある。
- 5 年に 1 度の第三者評価が義務化されるため、誠実な情報公開を徹底する方針。

2. 前回委員会議事録案の確認（資料 1 参照）

前回議事録案は異議なく承認。前回要望のあった「資格検定状況」について、受験者実数・合格者数を含むデジタル資料が配布された。

3. 2025 年度第 1 回委員会以降の主な経過について（資料 2 参照）

事務局長、広報室、キャリアサポートセンター、学生委員会、教務委員会、事務局、各学科長の各担当から、上半期の学生状況、学生募集、就職内定、退学防止対策（カウンセリング体制等）の進捗等が報告された。

4. 2025 年度学校関係者評価報告書案について（資料 3 参照）

事務局より、来年度からの学校教育法改正を見据えた報告書構成案の説明があった。

5. 2024 年度学校関係者評価報告書に示された課題への取り組み（中間点検）（資料4 参照）

男子学生の獲得や実習教育の改善など、昨年度の指摘に対する実行状況が確認された。

6. 2025 年度重点目標の中間点検（資料5 参照）

社会人向けリカレント教育の推進状況等、年度目標に対する現状と課題が共有された。

7. 委員総評

8. 意見交換など

委員からの具体的な指摘と、それに対する学校側の回答が行われた。（詳細は別紙のとおり）

9. 次回日程、その他

次回は 2026 年 2 月 28 日（土）14:00～、本年度の評価報告書最終確認をテーマに開催予定。

10. 閉会

石川委員長より閉会の挨拶があり、議事を終了した。

(別紙：2025 年度第 2 回学校関係者評価委員会の主な討議内容)

次第 7. 委員総評

・入学生の変化の状況もよくわかり、メンタルヘルス講話など全体で学生を支えていると感じている。これからも丁寧なサポートに期待したい。医療機関・協会・学校の三方にて協力及び連携強化が必要になってくる。課題であるボランティアの取り組みがきちんとなされている。

・総じて学科独自の目標達成に向けての取り組み、課題解消の対応は評価すべき点である。安定した募集状況でないことが気になる。学園の教職員がチームとして、今一度「英知結集」して頑張っ取り組んでほしい。

・先生方の苦勞がよくわかった。実習に関しては、学生自身の意識向上が求められるのでサポートをお願いしたい。介護福祉科のボランティア活動を全学科へ広めて欲しい。特に人との交流の大切さを身につけてほしい。

・平成 28 年度以降、御校より 10 名程度が入職しているが、退職者がいないので、学校の教育の良さが伝わってくる。今後とも、医療事務の職種について、「コミュニケーションスキル」は非常に大切なので在学中に身につけられるように頑張っ欲しい。

・先生方の努力・苦勞が非常に伝わってくる。企業側としても誠意のある対応で迎えたいと感じる。現場でコミュニケーションを取れる人をいかに育成するかが専門学校の教育の鍵だと感じている。企業側としてもサポートをしたい。

・介護福祉科において、留学生がたくさん入学し、新たな課題が見える中でとても真摯に対応されていることは評価に値する。自身の経験より、学生のモチベーションの低さは学校が暗い雰囲気、先生がどんよりとしている等、何かしらの理由があると感じている。御校は SNS の投稿を見ていても明るさがよく伝わってくるので、これからも学校の「明るさ」「雰囲気作り」を意識してほしい。

・教育環境・設備・立地も申し分ないので、学生を集める要素は存分にあると感じている。近年、現場の仕事内容・待遇も良く、業界において人材がもっと必要だということが広まると良い。学校としても幅広く、高校にも社会にも伝えていく必要がある。退学率も横ばいであり、オープンキャンパスでも仕事の将来像がよくわかるものとなっている。高校の現場にも知っほしいので、我々も努力しなければならないと感じている。

次第 8. 意見交換 ※総評と重複箇所あり

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
【情報公開と資格の価値】 合格率だけでなく実数（母数）を出す姿勢は誠実で良い。さらに高校生や親に対し「この資格が現場でどう役立ち、給与やキャリアにどう直結するか」という解説を加えれば、他校との差別化になる。	○資格の難易度や業界での評価についても、報告書やパンフレットで詳しく解説できるよう工夫したい。
【くすり・調剤事務科のカリキュラム改革】 登録販売者試験を1年生に前倒した決断と、高合格率を評価する。2年次に余裕ができる分、A Iに代替されない人間同士のコミュニケーションや商品知識の習得に時間を割いてほしい。	○早期取得により2年次に実践的なロールプレイングを増やせるようになった。A I時代だからこそ、現場のニーズに応えられる「接客のプロ」を育てる時間に充てていく。
【学校の明るさと活気】 他校（高校含む）と比べても、御校の先生方の活気と校内の明るさは際立っている。この雰囲気が学生の安心感や退学防止に繋がっているはず。自信を持って継続してほしい。	○外部からの評価を教員一同の励みにしたい。また、マナーなどの日常的な規律についても、明るさを保ちつつ粘り強く指導を継続する。
【事後指導の重要性】 実習での失敗や苦い経験は、学生が「自分に何が足りないか」を知る最大のきっかけとなる。事後面談等でその気づきを拾い上げ、卒業までに社会人としての意識を固めさせてほしい。	○失敗した学生ほど個別に寄り添い、学びに変えられるようフォローを強化する。

各学科・委員会からの詳細報告・議論要旨

- **【医療秘書科（石澤）】**：秘書検定準1級は高い合格率を達成し、検定指導には手応えを感じている。
- **【くすり・調剤事務科（渋谷）】**：カリキュラムを1年次集中型に変更した結果、登録販売者試験で高い合格率を達成。2年次の内定率は、資格を武器に順調にあがっている。
- **【介護福祉科（松田）】**：レクリエーション介護士2級は留学生含め全員合格した。
- **【看護科（伊東）】**：実習病院の大幅な変更があり、新体制での運営に注力している。
- **【学生委員会（松田）】**：9月にカウンセラーを交えた懇談会を実施した。プライバシーに配慮した相談室利用の見直しや、保健室・担任との連携強化により、退学予備軍の早期発見に努めている。

以上